

# 中山間地における果樹農業の展開

## ——ぶどう団地形成を中心として——

新 田 義 見

### 1. はじめに

私は、戦後、普及事業が始まりますと同時に、農業改良普及員として20年間、その後、農業経営の専門技術員として17年間勤め、普及事業一途な男でございます。5年前に定年退職しまして、私の住みます隣村で三良坂町という町——小さな町で実はダム建設の問題が起こってきており、町長が私の後輩であるというような関係もございます、大事業であるので、ぜひ相談に乗ってほしいということで今はそちらの方へ勤めながら、農業大学校の方にも通っております。

きょうは、私が農業改良普及員、さらに専技の時代に関わってまいりました、ブドウ団地の形成を中心とした広島県の中山間地における果樹農業の展開について、現場報告をさせていただきます。

ここでは、一昨年度、朝日農業賞受賞の三次ピオーネ生産組合の事例を紹介しながら、その成立の要因を探って、中山間地における農業発展の方向についての話題提供といった形で報告をさせていただきます。

### 2. 地域の概況

本論に入ります前に、広島県の概況についてご紹介します。広島県のキャッチフレーズは、一応三つあります。一つは、原爆の町、広島市です。第2番目には、日本三景の一つ、安芸の宮島です。第3は野球でカープの町です。産物といいますと、今ちょうどシーズンでございますが、おいしいカキが、また、灘に次ぐ酒のおいしくできるところであります。さらにミカンとか、マツタケなども有名です。

農業事情については、まず第1番に、気温

から申し上げますと、北は年間の平均気温が10度、南の方は平均気温が16度、雨量にいたしましても、北の方は2,600ミリ、南の方は1,200ミリといったような状態で、無霜地帯のミカン産地から、他方、積雪が1メートル50から2メートル地帯もありまして、まさに鹿児島県と秋田県を一緒にした日本の縮図といった県でございます。社会的にみましても、現在285万人の県民がおりますが、これが住んでおる場所は瀬戸内沿岸の約20%のところで、ここに80%の人口が集中しております。残りは中山間地の80%の土地に対して、わずか20%の人口、いわゆる過疎、過密の両極の県であります。

ところが、県北のある過疎町村では、「過疎を逆手にとる会」という運動が、ここ四、五年來、巻き起こってまいりまして、永六輔さんなどのような有名人を毎年呼んで、全国から押しかけてきておる状態です。

このように、自然条件や社会条件が非常にバラエティーに富んでおります。農業の面では、大産地らしいものがないのですが、小さな産地では、風土を生かした独特な産物が生まれております。例えば安芸津町では安芸パレイショがあり、全国一、二位です。さらに瀬戸内のレモン、これも全国有数であります。さらに北部地帯の和牛——肉の産地ですね。それから広島菜という大変おいしい広島独特の漬物ができてきております。それから近年では、洋ラン、幸水ナシ——特に関西では有名ですけれども——それに、本日報告いたしますピオーネブドウといったようなものも、日本一か、あるいは少なくとも、関西では逸品といったような好評を得ておるところです。

営農集団組合におきましても、日本農業賞

を受けました、庄原市の一本という営農集団も生まれておるのも、我が県の一つの誇りとするところだろうと思うのであります。

三次市について簡単に報告させていただきますと、広島から約70キロの地点にあります。それから中国縦貫道が通っておりまして、大阪と北九州を結ぶ中間地点です。この町の標高は200から500メートルぐらいのいわゆる中山間地に属しております。気候は、山陰の気象に似ておりまして、霧が深いのが特徴です。土壌は、花崗岩の風化した土が広く分布しております。さらに一方では、新生の第3紀層という土壌もありまして、いわゆる大昔は海の底であったとも言われておるところです。古墳が非常に多いという町の特徴も持っておりますが、このことは農業なり、開発をするという立場からいうと、一つは大変厄介な問題でもあります。

次に、第1表では、農業の動向が県と三次市と比較して、示してあります。三次市は、1970年に人口が底をつきました。それから、マツダ自動車会社が進出して、若干歯止めがかかってきつつありますが、まだ合併当時の人口にはかなりの差があります。農家戸数では、1960年から1990年で、70%に減少してき

ております。基幹的農業従事者は、30年以前の約8分の1ということであろうかと思えます。特に残念に思いますことは、耕地がこの30年間に、三次市だけで約1,400ヘクタール減っております。特に水田が1,000ヘクタールも減るということは、まことに残念なことです。

こういった状態が、単に三次市だけでなく、広島県における中山間地の農業の動向であろうかと思えます。農業の特徴としては、やはり米が中心、畜産、野菜が3本柱です。果樹の方は若干伸びつつありますが、全体的なウエートからいえば僅かです。

第2表に三次市のブドウ栽培の動向を示してありますが、三次市のブドウは歴史が浅く、1960年に水田転換として入ってきておるのが特徴です。その後、選択的拡大等の指導を受け、山地を利用して小集団が生まれてきております。そして現在は、60町前後の面積です。品種はピオーネが主体をなしてきております。それから一つおもしろいのは、栽培者のうちで、約半数が法人の協業経営の傘下にあります(第3表)。この協業経営は、総体的に規模が大きく、1戸当たりの規模も大きくなっています。現在の販売額は、ブドウだけで大体5億がございます。

第1表 地域農業の動向

| 区 分 | 年次   | 総人口<br>(人) | 農 家 数 (戸) |        |        |        | 基幹農<br>従事者 | 耕 地 (ヘクタール) |        |        | 農業生産額 (百万円) |        |        |        |
|-----|------|------------|-----------|--------|--------|--------|------------|-------------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------|
|     |      |            | 計         | 専業     | 1種     | 2種     |            | 計           | 田      | 畑      | 米           | 野菜     | 果実     | 畜産     |
| 広島県 | 1960 | 2,184,043  | 179,450   | 48,079 | 63,231 | 68,110 | 303,550    | 112,200     | 78,199 | 34,100 |             |        |        |        |
|     | 1965 | 2,281,146  | 163,633   | 29,223 | 49,526 | 84,884 | 223,603    | 108,300     | 75,000 | 33,300 | 27,346      | 8,393  | 9,230  | 12,847 |
|     | 1970 | 2,436,135  | 152,487   | 19,689 | 36,772 | 96,026 | 152,450    | 103,109     | 70,600 | 32,500 | 32,120      | 11,410 | 10,941 | 20,081 |
|     | 1980 | 2,739,156  | 130,611   | 17,593 | 14,827 | 98,191 | 85,520     | 82,900      | 57,400 | 25,500 | 49,793      | 19,383 | 11,832 | 45,671 |
|     | 1990 | 2,849,822  | 102,936   | 19,693 | 6,180  | 77,063 |            | 59,958      | 46,427 | 13,532 | 53,223      | 17,939 | 13,309 | 40,799 |
| 三次市 | 1960 | 42,163     | 4,661     | 1,681  | 2,155  | 1,025  | 9,707      | 4,030       | 3,460  | 574    |             |        |        |        |
|     | 1965 | 37,871     | 4,544     | 861    | 2,214  | 1,469  | 7,462      | 3,960       | 3,400  | 556    | 1,223       | 148    | 21     | 333    |
|     | 1970 | 36,169     | 4,349     | 518    | 1,920  | 1,911  | 5,394      | 3,890       | 3,350  | 536    | 1,725       | 179    | 49     | 636    |
|     | 1980 | 37,875     | 3,868     | 407    | 690    | 2,771  | 2,470      | 3,240       | 2,800  | 440    | 2,634       | 414    | 178    | 1,429  |
|     | 1990 | 39,465     | 3,404     | 539    | 185    | 2,680  |            | 2,600       | 2,383  | 217    | 2,802       | 234    | 276    | 962    |

注: (1) 総人口は国勢調査(1990年は概数)。

(2) 農家数、農従者、耕地面積は農林業センサス。

(3) 農業生産額は農林統計(1990年以降は1989年の数値)。

第2表 ブドウ栽培面積の推移

(単位: ha)

| 年     | 1960 | 1965 | 1970 | 1975 | 1980 | 1985 | 1988 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 品種    |      |      |      |      |      |      |      |
| デラウェア |      | 2.5  | 10.0 | 20.8 | 20.8 | 18.4 | 12.4 |
| 巨峰    |      |      | 0.2  | 2.2  | 2.2  | 2.2  | 2.2  |
| ピオーネ  |      |      |      | 18.8 | 18.8 | 18.8 | 23.0 |
| ベリーA  | 2.5  | 8.0  | 10.0 | 18.8 | 21.0 | 18.6 | 16.1 |
| 計     | 2.5  | 10.5 | 20.5 | 60.6 | 62.8 | 56.0 | 53.7 |

第3表 ブドウの経営形態別農家数、面積(1988年)

| 経営形態   | 農家数      | 面積     | 1戸当たり面積 | 栽培品種     |
|--------|----------|--------|---------|----------|
| 個人     | 43戸      | 7.5 ha | 0.17 ha | ベリーA     |
| 法人(協業) | 32 (3法人) | 46.2   | 1.44    | 2~3品種組合せ |
| 計      | 75       | 53.7   | 0.71    |          |

## 3. 三次ピオーネの発展過程

本題の三次ピオーネ生産組合の概要を説明します(第4表)。まず、これに至るまでのこ

とをちょっと申し上げておきますと、1968年から69年にかけて、県の開発調査が行われます。そこで、この三次市に約100ヘクタールの開発可能地があることが確認をされてお

第4表 三次ピオーネ生産組合の年次別概要

| 年次            | 1     | 3      | 5      | 7      | 9            | 11     | 13     | 15     | 16    |
|---------------|-------|--------|--------|--------|--------------|--------|--------|--------|-------|
| 年             | 1974年 | 1976年  | 1978年  | 1980年  | 1982年        | 1984年  | 1986年  | 1988年  | 1989年 |
| 組合員数(人)       | 24    | 24     | 22     | 22     | 22           | 22     | 22     | 21     | 21    |
| 出資口数(1000円/口) | 1,200 | 22,170 | 31,090 | 37,690 | 39,890       | 39,890 | 39,890 | 49,799 |       |
| 土地(ha)        |       |        |        |        | (1986年に換地終了) |        |        | 79.1   | 79.1  |
| 植栽面積          |       |        |        |        |              |        |        |        |       |
| ピオーネ(ha)      | 11.8  | 18.8   | 18.8   | 18.8   | 18.8         | 18.8   | 18.8   | 22.5   | 24.3  |
| デラウェア(ha)     |       | 10.0   | 10.0   | 10.0   | 10.0         | 10.0   | 10.0   | 6.4    | 4.6   |
| マスカットベリーA(ha) |       | 6.8    | 6.8    | 6.8    | 6.8          | 6.8    | 6.8    | 6.7    | 6.7   |
| 計(ha)         | 11.8  | 35.6   | 35.6   | 35.6   | 35.6         | 35.6   | 35.6   | 35.6   | 35.6  |
| 主要建物          |       |        |        |        |              |        |        |        |       |
| 管理舎(棟)        | 1     | 1      | 1      | 1      | 1            | 1      | 1      | 1      | 1     |
| 農機具格納庫(棟)     | 1     | 1      | 1      | 1      | 1            | 2      | 2      | 2      | 2     |
| 物産庫(棟)        |       |        | 1      | 1      | 1            | 1      | 1      | 1      | 1     |
| 給油施設(棟)       |       |        | 1      | 1      |              |        |        |        |       |
| 直売所(棟)        |       |        |        | 1      | 1            | 1      | 1      | 1      | 1     |
| 主要農機具         |       |        |        |        |              |        |        |        |       |
| トラクター(台)      | 1     | 3      | 3      | 3      | 3            | 3      |        |        |       |
| スビードスプレッサー(台) |       | 3      | 5      | 6      | 9            | 11     | 12     | 12     |       |
| トップカー(台)      | 5     |        |        |        |              |        |        |        |       |
| ブルドーザー(台)     |       | 1      | 1      | 1      | 1            | 1      | 1      | 1      |       |
| ユンボ(台)        |       |        | 1      | 2      | 2            | 2      | 1      | 1      |       |
| ショベルドーザー(台)   |       |        | 1      | 1      | 1            | 1      | 1      |        |       |
| 車両            |       |        |        |        |              |        |        |        |       |
| トラック(台)       |       | 2      | 2      | 1      | 1            | 1      | 1      | 1      |       |
| 乗用車(台)        |       | 2      | 6      | 6      | 5            | 5      | 2      | 2      |       |
| その他           |       |        |        |        |              |        |        |        |       |
| 果樹棚(ha)       |       | 18.8   | 35.6   | 35.6   | 35.6         | 35.6   | 35.6   | 35.6   |       |
| トンネルハウス(ha)   |       |        | 10.0   | 18.9   | 18.9         | 18.9   | 18.9   | 22.2   |       |
| ビニールハウス(ha)   |       |        | 0.3    | 3.3    | 3.3          | 3.3    | 3.3    | 5.2    |       |
| 灌漑施設(ha)      |       |        | 18.8   | 39.0   | 39.0         | 39.0   | 39.0   | 39.0   |       |

ります。1970年には、県営パイロット事業を県が発足させまして、地元の協議を開いたのが、手始めだと言われております。1971年から72年にかけて、開発基本計画を県と市が共同で行い、作目を何にするかという論議の結果、ブドウと野菜と酪農を主体に90ヘクタールの畑地を造成しようというふうに一応決めたわけです。これが三次ピオーネ生産組合の発足するまでの段階です。

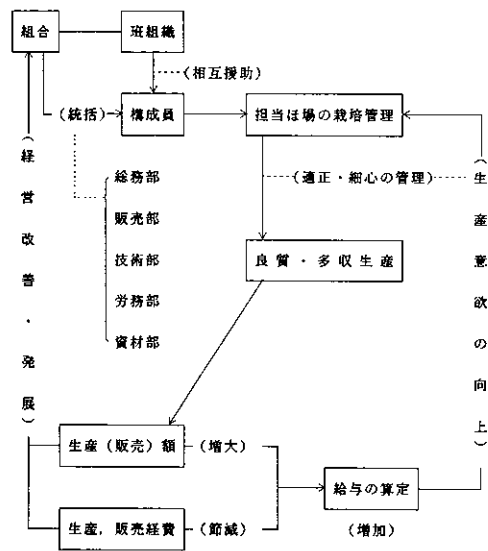
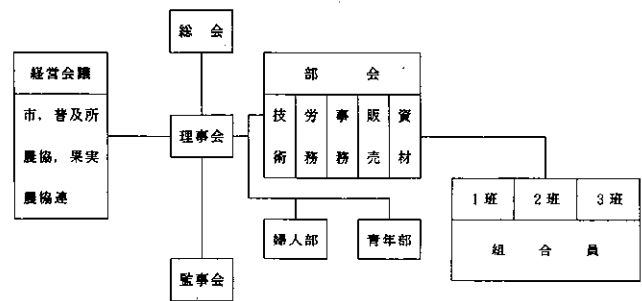
そこで、三次ピオーネ生産組合は1974年に24名で結成して、それが現在21戸で、3戸が脱落いたしております。これは、果樹を植え

て、製品になるまでに非常に経費がかかって、生活に困って、その末に脱落したものでございます。その後は変動がなく続いて、今日に至っております。ブドウの面積につきましては、ごらんいただきますように、ピオーネを主体にいたしまして、デラ、マスカットといったようなものを労働配分上、組み合わせをいたしております。土地は、共同で法人で取得しており、1986年に換地が終了しております。施設の方は、大体1978年に一応の完了をみております。

つぎに第1図によって、組織の概況を説明

### 三 次 ピ オ ー ネ 生 産 組 合

第1図 組織機構図（内部組織機構および外部関係機関との関係を図示する）



いたします。

三次ピオーネ生産組合の組織の特徴は、理事が6名（組合長は互選）等、図のように役割分担を一応明確にしておるということです。さらにもう一つは、班編成をしてくれています。これは、後ほど申し上げますが、途中で組合の運営組織のあり方を若干変えてきております。

したがいまして、意思決定のプロセスは、最高は総会ではありますが、6つの機関を持っております。部会から理事会、総会という一つのプロセス、それからもう一つが理事から総会へ、さらに部から理事で決定する事項、部で決定する事項、班で決定する事項、細かい作業等については、部なり、班で決定することになっております。

以上、こういったことを比較的にきちんとやっておりますのが、この組合の特徴です。図

の下にありますのは、これを一部、組織改正したものです。

つぎに第5表で、この組合の組織活動をみておきます。一番下の計の欄の面積は全く変動はございません。最近ちょっと減ってきておりますが、これは既に更新期にきておるわけで、実質的にはほとんど変わっておりません。生産量は、1983年がピークで、最近少し落ちてきていますが、大体500トン前後です。少し落ちたのは、更新時期にきているせいです。販売額は、1983年に一応目標を達成して、3億円という成果を上げ、1988年は全体で約4億、去年は5億円になってきております。

ピオーネについてみますと、最近、幼木面積がふえてきております。生産量は大体横這いですが、ここで注目しておきたいのは、平均単価が比較的、高位安定をしてくているということです。1988年の時点では、全体が4

第5表 生産量、販売額の推移

| 品種                                        | 項 目               | 1980年   | 1982年    | 1983年   | 1984年        | 1986年          | 1988年                     | 1989年      |
|-------------------------------------------|-------------------|---------|----------|---------|--------------|----------------|---------------------------|------------|
| ピ<br>オ<br>ー<br>ネ                          | 面 積 (ha)          | 18.8    | 18.8     | 18.8    | 18.8         | 18.8           | 18.8(22.5)                | 18.8(24.3) |
|                                           | 生産量 (t)           | 133.4   | 180.9    | 236.7   | 204.8        | 310.3          | 243.7                     |            |
|                                           | 10アール当たり収量 (kg)   | 710     | 962      | 1,259   | 1,089        | 1,651          | 1,296(1,083)              |            |
|                                           | 販売額 (千円)          | 109,845 | 173,513  | 212,416 | 209,935      | 315,310        | 293,540                   |            |
|                                           | kg当たり単価 (円)       | 822     | 959      | 897     | 1,025        | 1,016          | 1,205                     |            |
| デ<br>ラ<br>ウ<br>エ<br>ア                     | 面 積 (ha)          | 10.0    | 10.0     | 10.0    | 10.0         | 10.0           | 6.4                       | 4.6        |
|                                           | 生産量 (t)           | 51.7    | 75.8     | 135.0   | 123.8        | 97.2           | 70.9                      |            |
|                                           | 10アール当たり収量 (kg)   | 517     | 758      | 1,350   | 1,238        | 972            | 1,108                     |            |
|                                           | 販売額 (千円)          | 24,481  | 42,801   | 55,162  | 48,712       | 46,285         | 36,718                    |            |
|                                           | kg当たり単価 (円)       | 474     | 564      | 408     | 393          | 476            | 517                       |            |
| マ<br>ベ<br>ス<br>リ<br>カ<br>リ<br>ッ<br>ア<br>ト | 面 積 (ha)          | 6.8     | 6.8      | 6.8     | 6.8          | 6.8            | 6.7                       | 6.7        |
|                                           | 生産量 (t)           | 102.5   | 78.4     | 122.5   | 153.5        | 159.2          | 174.2                     |            |
|                                           | 10アール当たり収量 (kg)   | 1,507   | 1,153    | 1,801   | 2,257        | 2,341          | 2,600                     |            |
|                                           | 販売額 (千円)          | 25,364  | 24,483   | 44,934  | 53,531       | 37,864         | 59,400                    |            |
|                                           | kg当たり単価 (円)       | 247     | 312      | 366     | 348          | 238            | 338                       |            |
| 計                                         | 面 積 (ha)          | 35.6    | 35.6     | 35.6    | 35.6         | 35.6           | 31.9(35.6)                | 30.1(35.6) |
|                                           | 生産量 (t)           | 287.6   | 335.1    | 494.2   | 482.1        | 566.7          | 488.8                     |            |
|                                           | 販売額 (千円)          | 159,490 | 240,797  | 312,512 | 312,178      | 399,559        | 389,298                   |            |
|                                           | 10アール当たり販売金額 (千円) | 448     | 676      | 878     | 877          | 1,122          | 1,220(1,094)              |            |
| 備 考                                       |                   | 冷夏長雨    | ほ場分班方式導入 | 目標収量達成  | 冬季異常寒液、夏季干ばつ | ピオーネ無核でも育ち、土回る | デラウェアの一部をピオーネに改種、ピオーネ品質向上 | 設立15周年     |

注、( ) 内は幼木を含む面積。

億ありますから、その中で3億はピーオーネの売り上げです。

第6表はピーオーネの単収と価格の変動を比較したものです。収量は全国平均より3割から4割、多くなってきました。販売単価の方も、広島、大阪、岡山と比較してみしても、大体1割5部から2割ぐらい高く推移してきております。第7表は3カ年の生産性を比較したのですが、生産総額は3億1,000万です。10アール当たりが87万6,000円、同売

り上げは約110万円で、純益は23万3,000円です。構成員1戸当たり収入をみたのが第8表です。ここ3、4年間は600万円台が続いてきておりまして、まあまあサラリーマン並みで、他産業へ従事しなくてもどうにかこうにか食えるといったような状態です。

決算がまだ報告されておませんが、昨年は大変成績がよく、750万円ぐらいになるようです。

第6表 ピーオーネの単収と単価の比較

|                     |       | 1986  | 1987  | 1988  | 平均    |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 10a当たり収量<br>(キログラム) | 三 次   | 1,651 | 1,681 | 1,296 | 1,543 |
|                     | 全 国   | 1,100 | 1,100 | 1,100 | 1,100 |
| 販売価格<br>円/キログラム     | 三 次   | 965   | 954   | 1,162 | 1,027 |
|                     | ※広島中央 | 765   | 783   | 1,096 | 881   |
|                     | 大阪中央  | 888   | 840   | 885   | 871   |
|                     | 岡山県産  | 845   | 857   | 852   | 851   |

※は巨峰単価。

第7表 生産性の状況

(単位：千円)

|              | 1986年   | 1987年   | 1988年   | 平均      |
|--------------|---------|---------|---------|---------|
| 生産費用         | 316,593 | 307,488 | 311,646 | 311,909 |
| うち生産・販売経費    | 252,756 | 245,593 | 239,582 | 245,977 |
| 減価償却費        | 38,238  | 39,543  | 44,211  | 40,664  |
| 支払い利息等       | 25,599  | 22,352  | 27,853  | 25,268  |
| 10a当たり生産費    | 889     | 864     | 875     | 876     |
| 販売収益         | 399,559 | 395,491 | 389,298 | 394,783 |
| 10a当たり売上げ    | 1,122   | 1,111   | 1,094   | 1,109   |
| 10a当たり純益     | 233     | 247     | 219     | 233     |
| 全体換算(35.6ha) | 82,948  | 87,932  | 77,964  | 82,948  |

注：生産・販売経費中、構成員の労務費は年間1,800千円/人で換算。

第8表 構成員の収入

(単位：千円)

|             | 1986年   | 1987年   | 1988年   | 平均      |
|-------------|---------|---------|---------|---------|
| 組合員給与(組合総額) | 116,376 | 116,992 | 107,029 | 113,466 |
| 家族労賃(組合総額)  | 25,809  | 25,703  | 25,755  | 25,756  |
| 計           | 142,185 | 142,695 | 132,784 | 139,222 |
| 構成員1戸当たり平均  | 6,463   | 6,795   | 6,323   | 6,527   |

注：構成員 1986年 22戸、1987～1988年 21戸  
家族従事者 27人。

#### 4. 産地の成立要因と当面している課題

以上、簡単に経過なり、活動の実態をみてきましたが、最後に、この産地の成立の要因と課題について述べてみたいと思います。

それから、この組合が一体どう展開をしていくのであろうかということは、ひとつ問題を提起しながら申し上げて、皆さんからの助言を仰ぎたいと思っています。

##### (1) 担い手

担い手については、第9表のような構成員であります。平均年齢は44歳。開園当時は、平均年齢が32歳の非常に意気盛んな青年でありました。昭和37、8年ごろから農業構造政策が取り上げられまして、構造改善事業の中で、青年建設班というのを設立しないところ

には、この事業はやれないよということがあったのであります。

その当時、私は普及所で、特に青年を担当いたしておりまして、1カ月の合宿訓練（幾ら近いところでも合宿訓練）を34、5名の青年といたしたのであります。そのときの青年6名が、今、組合のリーダーであり、全く中核になってきておりまして、まことにうれしく思っております。

つぎに、この集団の特徴をみますと、居住地は市内ばらばらであります。遠いところは17キロ、近いところで1キロぐらいのところに点在しており、地縁的集団ではありません。いわゆる市内の同志の集いであります。

さらに、ブドウは全くの素人でした。親も知っていないし、全く無からの出発で、初体

第9表 構 成 員 の 概 要

| 農家<br>番号 | 年齢 | 住 所   | ぶどう<br>経験年 | 前 歴    | 組合従<br>事者数 | 自営<br>稲作  | 備 考<br>(組合役員等) |
|----------|----|-------|------------|--------|------------|-----------|----------------|
| 1        | 51 | 東酒屋町  | 16         | 運転手    | 2          | 7-ル<br>84 |                |
| 2        | 52 | 青河町   | 16         | 養魚業    | 2          | 60        |                |
| 3        | 30 | "     | 10         | (父) 鉄工 | 2          | 59        | 58年より後継        |
| 4        | 34 | 塩 町   | 10         | (父) 農業 | 2          | 0         | " 資材部長         |
| 5        | 47 | 島 敷 町 | 16         | 農業(酪)  | 2          | 0         | (組合長)          |
| 6        | 40 | "     | 16         | 運転手    | 3          | 40        |                |
| 7        | 53 | 秋 町   | 16         | 鉄工職    | 2          | 29        |                |
| 8        | 63 | 青河町   | 16         | 農業(酪)  | 2          | 40        |                |
| 9        | 54 | 秋 町   | 16         | 大工職    | 2          | 151       | (労務部長)         |
| 10       | 40 | 大田幸町  | 16         | 農業(和牛) | 2          | 125       |                |
| 11       | 26 | 有 原 町 | 5          | 農業(稲)  | 2          | 85        |                |
| 12       | 40 | 大田幸町  | 16         | 会社員    | 2          | 151       | (販売部長)         |
| 13       | 48 | 向江田町  | 16         | 農業(野)  | 2          | 123       |                |
| 14       | 48 | 東酒屋町  | 16         | 農業(〃)  | 2          | 105       | (前組合長)         |
| 15       | 51 | "     | 16         | 会社員    | 2          | 109       | (総務部長)         |
| 16       | 53 | 向江田町  | 16         | 農業(稲)  | 2          | 143       |                |
| 17       | 53 | 東酒屋町  | 15         | 会社員    | 2          | 58        |                |
| 18       | 53 | 向江田町  | 16         | 農業(酪)  | 2          | 105       |                |
| 19       | 33 | 和 知 町 | 5          | "      | 4          | 80        | 61年より後継        |
| 20       | 46 | 十日市町  | 16         | 農業(野)  | 3          | 93        | (技術部長)         |
| 21       | 35 | 青河町   | 5          | 農協職員   | 4          | 60        | 61年より後継        |

験であります。しかも1戸平均が1.7ヘクタールという思い切ったことをやった。今ではさほどは感じませんが、当時としては思い切ったことをやったものです。

もう一つの特徴は、この前歴にみられるように、専業農家は約半数でした。会社員の職についていたような人が大変多い。いわゆるUターンの人であります。しかし、ここの特徴は、全然農業を知らない全員のサラリーマンはいなかったのです。何らかの形でサラリーマンだったけれども、家の伝統的なサラリーマンではなく、元来は農家だということです。言うならば、Uターン青年半数との混成チームです。

もう一つの特徴は、稲作を自家経営している。しかも市の平均の約60アールと比べ、この組合員の平均は90アールで、かなり大きい稲作経営であります。このことは、成園となるまでに生活の大きな支えとなったのです。さらに、ブドウの投資への担保物件ともなり、このことは地元開拓の強みであるというふうに言えます。このことが、今考えてみると、大きな成功の要因であったと見ております。

この中に2人ほど稲を全然つくっていない人もおりますが、これは農家の生まれでも分家をして出たとか、息子にもう譲ってしまったということ、ゼロになっております。

問題は、これから次代をどうするかです。まだ40そこそこで、まだ血気盛りではございますが、やっぱり、ぼつぼつ考えておかなければならない時期にきております。しかし、幸いにもう既に父親にかわって構成員となっておる組合員がおりまして、この人たちが、組合の要職についておるということで、当分の間は心配は要らないのではないかと考えております。

## (2) 技術確立の問題

技術確立ということにつきましては、ピオーネという品種は開発されて、まだ2年目のときでありました。したがって、栽培技

術は確立されておられませんので、実は広島県の果樹試験場からも反対があったのであります。そういう自信のないものを入れていいかどうかと、たびたびこの普及所の方へもおしかりを受けたところで、普及員も中に入って、実は大変に苦勞をいたしました。だが、先進地等の視察を行いまして、農家がぜひやってみたいという意気に燃えて、大胆にこの品種を導入したことが、今日のこの産地のポイントをなしておる第2の条件ではないかとみております。

技術確立の第2点としては、そういった難しい品種を入れた上に、立地条件は強粘土でやせており、しかも雨が多いときております。これに対する非常な苦しみ、困難があったのであります。有機物を投入するとか、深耕、排水ということを本当に泥まみれ、血みどろになって闘いをいたしまして、そして根の伸長と結実の関係をうまくコントロールさせて、技術を確立したのであります。

第3点は、特にピオーネという品種は無核で小粒果がつきやすいという欠点を持っております。これを逆手にとりまして、ジベレリン処理によって完全な無核にして、しかも大粒生産に成功したのであります。すなわちニューピオーネということで市場に登場させまして、全国に先駆けてその技術を確立したのであります。

第4として、加温施設を導入しまして、これは山梨では古くからやっていることですが、特に早期出荷をして、単価を引き上げる。平均単価が3,000円、去年あたりは3,700円ぐらいで売られております。そのことが、労働の配分にも大いに役立っております。

以上のように、ピオーネで1.5トンの安定生産をしてきました。そして「黒い真珠」と呼ばれるように、非常に香りが高く大粒で、市場の人気をおおいに集めたわけでございます。ところが、この技術にも問題点がございます。今後一体どうするのか。もう既に定植



してから17、8年を迎え、更新期にきておるわけでございます。当面は、現在の技術の向上を図って、今後一体どういうふうな形で新しい品種を作り出していくというのが課題でございます。

既に、この組合はここ5、6年そういうことで取り組んでおりますものの、まだまだ実際の農家でございますので、この辺の品種については、まだ知識が十分ではございません。ここ2年ぐらい前から1粒が25グラム、卵の半分よりかちよっと大きめなブドウが、この組合から作り出されて、一部、昨年、市場へ現物を出しましたけれども、また大変人気が上がってきております。果たしてこれがまたどんなものかなというところで、迷っておるところでございます。

### (3) 販路の開拓

販路の開拓が全くの素人で、本当に苦勞をしたところであります。しかしながら、組合員は、販売はみずから開くものという強い理念を持っておりました。したがって、当初は、組合員全員で、市場やデパート、量販店、小売店とPRを続けてまいりましたし、さらに官公庁や事業所を通して、あるいは団地で試食会を開いたりいたしました。さらに大阪市場へほとんどの組合員が1週間泊り込んで、店員になって勉強をさせてもらったという苦勞話がございます。

初めからの姿勢は、消費者へ一貫して安定供給をしていくということがモットーでございます。ですから量が若干足らなくても、とにかく喜んでいただくお客さんへは、どんどん続けて送っていくというスタイルで出発して、今日に至っております。

近年では、スーパーとか、生協とかといった大口需要に即応できるよう、この生産組合自体といたしましても、3年前にファクシミリも入れまして、すぐ受注できるような体制をつくっております。さらに宅配便、あるいは地元販売施設を充実、強化をいたしまして

やっております。

しかし、ここで一番大事なものは、いいものを出していく。それがためには、やはり選果を厳しく、本当に商品として価値のあるものは価値のあるように、くず物はくず物のようにしていくことが極めて大事である。そのために、組合員がお互いに選別し、検査員を選出して、自己選果を徹底してやっております。

最近では、ピオーネの良質のものは、全く一般市場に出回らないでギフト商品でございます。300トンかそこらでありますので、大阪市場だけで、もういっぱい。ギフトは全然競らない商品になっておりまして、また一般市場から文句が出ておりまして、もうちょっとは横流しをせいや、うちの方へくれやという声が出ております。市場側の方から、産地規模を何とかして拡大してほしいという強い要望が参っております。

### (4) 組織運営

組合設立後8年間は、全面協業のメリットを生かしてまいりました。つまり、技術の高位平準化、熟畑化、販路の拡充、それから、この地帯は霜がおりるので、これが実際は大変なんです。霜との闘いです。防霜対策、こういったものは、しっかり協業のメリットを生かしてきましたが、1982年に、組織運営について革新的な手法を導入しました。第1図の下図のように、日常の管理については、個人に責任を任す。そこで個人の能力や意欲を最大限に発揮させる。さらに、その上に班という組織を入れまして、21人で3班制によって、いわゆる相互援助方式を取り入れたのであります。このことが成立要因の一つであろうかと思えます。

このように集団組織としての目標である能率向上ということと、個人の論理であります成果の向上というものを、同時に高める組織への組みかえをしたのであります。しかし、ここでこういったことを簡単に言っておりますが、これは簡単ではございませんでした。

この話が起ってから3年間、極端にいいますと、毎晩のように、組合員たちは論議に論議を重ねた結果、ここの地点に至ったのであります。その間のリーダーの粘り強さは、本当に頭の下がる思いがいたしております。

しかし、このような組織編成をやりましてから、急激にばつと生産が上がってきたのであります。収益も販売量も上がってきたのであります。同時に、この組織の内部の内発的エネルギーを盛り上げる方法として、特に婦人部と青年部の活動は見逃せないものがあるわけでありまして。

#### (5) 波及効果

これは、ややその成立要因とは違いますが、波及効果は一体どうであろうかということを見てみたいと思います。

第1は、社会的に地元の雇用非常に大きく貢献しました。年間、家族以外の労力は延べで大体6,000人ほど要ります。1日に少ないときで50人、多いときに120人ぐらいの雇用者が要ります。そういうことで、いわゆる中企業並みの雇用の場になり、地元雇用の拡大に多に貢献しております。

第2は、三次ピオーネの生産に強い刺激を受けまして、現在、私が勤めております三良坂町にも、実は第2のピオーネ団地が誕生いたしました。20ヘクタールの山を開墾し、5戸の農家が完全共同経営で参加をいたしまして、10ヘクタールのブドウ団地を形成しました。ことして4年目になりますが、昨年、初出荷を見たのであります。そして、昨年、ブドウ祭りを大々的に計画、実施いたしましたところ、たくさんの方が集まってきました、いわゆる町おこしの中心に、ピオーネのブドウ祭りがなってきたおのも一つの波及効果であろうと思います。

第3には、三次ワインの里づくりというのが、ここ4、5年来、話題になってきております。これもいよいよ第3セクターの組織が結成されまして、広島で3年後にアジア競技

大会が開かれますが、それまでには、三次ワインの工場を農協が中心になって、第3セクターとしてぜひ実現させたいと、今、意気込んでおるところです。

#### (6) 関係指導機関の支援体制

まず行政は、開発的調査から始まりまして、どこでもやっておるように、計画策定、特に苦勞したのは用地の先行取得であろうと思います。これは、町が責任を持って用地の先行取得を行いました。さらに、それよりも難しいのは参加者の勧誘であります。全然ブドウは素人でございますので、非常に不安がつきまわったわけでありまして。基盤の整備等には、市なり、町なりが相当の財政負担をいたしております。さらに参加農家の債務保証も市なり、町が行ってきております。さらに三良坂町では、財政負担としまして、償還助成制度を設けております。償還に入ると非常に経営を圧迫するわけでございますので、償還に入って過剰投資になりますと、その辺の助成援助を長年にわたって町が、条例で定めて行うことになってきております。これは、余り全国に例がないのではないかと考えております。

第2点は技術の問題であります。これは先ほどから申し上げておりますように、普及所が主体となってやりました。試験場からは反対され、県の行政からも、どうかな、やれるんかなと、初めは非常に不安を持っておったのですが、普及所は、所長を中心にプロジェクトチームをつくりまして、日夜、若手の濃密指導をしたのであります。特に参加農家の勧誘については、本当に背戸口から入りながら、不眠不休でやったことが、今でも頭の中に浮かんでくるわけでございます。

さらに専門普及員——私は、果樹の専門ではございませんが、果樹の専門普及員を張りつけまして、10年間は異動させない、異動させては困るんだということで、この技術確立に当たらせてたのであります。

農協は、どちらかといえば、少し後ろから

ついてられました。どうなるのかと非常に不安がありましてか、初めは資金の方も渋々されていたのが現実でしたが、だんだん目に見えてきますと、農協の責任において選果場を建てましょうということから、あるいは小さな町であります、地方市場を充実させましょう。地元販売も協力しましょう。さらに近年では、販売の専任者を置くところまできたようであります。市、普及所、農協、この三者が一体となってやったから、この事業が、一つはできたのではなかろうかと考えております。

先ほどの組織図を見てもらってもわかりやすいように、経営会議というのを頻繁に開きます。いわゆる実務担当者、ここが戦略、戦術の場であります。そこで戦略戦術を練りながら、もちろん組合員の人と一緒にやっておるのが、一つの生き方ではないかと思っております。

以上、産地要因を探ってみますと、行政指導から出発したんです。これは行政指導から出発したんですが、早い時期に農業者主導型に転換したのではないかと私は考えております。そのことが一つではないか。

もう一つは、広島方式とよく言われるんですけども、用地の先行取得、それから出発は協業でいく、法人でいく、共同完全全面協業でいくよと、これは広島方式とよく呼んでおるのでありますが、そういうパターンがよかったか悪かったかわかりません。これで失敗したのも、広島県にはかなりありますので、全部成功しているわけでは決してございません。そういうことがどうかということが、この地点では、まずまずうまくいったのではないかとみております。

時間が参りましたので、この辺でとめておきますが、以上、産地を一口に、なぜ成功したのかなと言え、組合の理事6人が、全部口をそろえて言うのは「それは、妻の協力のおかげだ」と言いました。婦人はやっぱり強

いですな。妻の協力のおかげで今日に至っているんだと言いました。

ここに15周年を記念して「りんどう」という雑誌が出ております。これは、農協のピオーネという婦人部が機関誌としてつくっている雑誌で、今、4号目でございます。毎年ではございません。全くこれは寄せ書きでございます。ここへ若い婦人連中が、写っております。この人が、一昨年、15周年を迎えるに当たって、感想を出しておりますので、これを読ませていただいて終わりにしたいと思っております。

「平成元年、三次ピオーネ生産組合が創立15周年を迎え、婦人部が文庫『りんどう』第4号、創立15周年記念号を発行することができ、本当に感慨深いものがあります。

思えば、昭和49年のあの朝、空は真っ黒い雲に覆われ、雷と風雨の激しい悪天候で、組合の行く先を見る思いでありました。しかし、昼間には天気も回復し、くわ入れ式は滞りなく終わり、出席者の人たちの新しい長靴には、赤土が重々しくついてたのを覚えております。

今日これまでに成れたのは、行政や地域の多くの方々の苦勞の足跡と、辛苦の汗を流していただいた賜物と、深い感謝の念でいっぱいです。

お世話になった方の中には、今は亡き人や、他の職場で働いておられる人と、数え切れない、いろいろな思い出があります。今では婦人部も、若いはつらつの主婦がふえてきました。既に3代目の後継者も元気に、たくましく農園を走り回っている姿を見受け、とても力強く思っております。

私たち婦人部の努力と忍耐もですが、多くの手助けがあってこそ今日があることを忘れないで、このことを励みにし、これからも厳しい農業情勢の中でブドウづくりを生きがいに、夫や家族とともに健康な笑顔をたたえ、仲よく頑張り続けたいと思っております。」こう序文

に書いております。

以上で終わらせていただきます。

○ 私、ちょうど災害対策のことで三次をお訪ねしたことがあるんですけども、そのときの記憶によれば、今度、ブドウなどを植えるため新しく開発したところというのは、従来の農地を転作したものではなくて、林野を造成したものです。そうしますと、かなり傾斜があると考えてよろしいわけですか。

新田 そうです。

○ もう一つ重ねてお聞きしますが、そうしますと、従来、人間の手が入っていなかったところを造成して、いわゆる果樹園にしたことによって、この十数年の間に、例えば大雨の降ったときとか、非常にお天気が続いたときとか、その流域といいますか、下流に対して何か影響があったというような事実はございますでしょうか。

新田 少しは問題になったところがありますが、大きな問題はさほどありません、雨の場合はです。しかし、ご案内のように、これが実際問題恐ろしいのでありますが、その辺はかなり沈砂池などの整備がされていた結果ではないかなということが考えられます。

もう1点の水の問題、干ばつの問題につきましては、かん水施設を完備をいたしております。三次ピオーネの場合は随分遠い川から水を引いております。三良坂の場合も同様でございますが、このかん水、干ばつに対しては影響がほとんどありません。

それから、一番困るのが地力でございます。花崗岩のマツタケの産地でございますので、土壌はご想像願えると思います。そういうところでやるんですから、やっぱり地力をつくるということは大変なことでございます。

○ 3点ほど伺いたいんです。

第1図、経営の組織図がありますけれども、市とか、普及所とか入っている経営会議がございまして、これは、どういう役割を

果たしているのかということですね。

それから、恐らくほかにも法人があると思うんですが、こういうふうに、市とか、普及所が入っているような経営会議というのが、ほかの法人にもあるのかどうか。逆にいえば、この法人、三次ピオーネだけこういう経営会議があるのかどうか、それが一点。

それから、これは法人だと思んですが、いつ法人にされたのか。それから法人の形態、有限会社とか、農事組合法人とかとあると思いますけれども、その形態。

もう一つは、出資金が非常に多いですね。4,900万円ですか。私が今まで見た中では、これだけ大きな出資金を持っているのはなかなかないんじゃないかと思うんですが、その辺、3点ほど教えていただけないか。

新田 経営会議の役割機能でございますが、広島県の場合に世羅郡一带、幸水農園をご存じかと思いますが、広島県の中部地帯の500町歩の開発があります。この地帯は全部こういった形式で、こういう経営会議を持っております。

それから経営会議の機能ですが、構成は大体そこにあるような、大なり小なり若干違ったのもありますけれども、行政と技術と、それから農協さんのような流通、これが入っておるのでございます。機能としましては、開発当初は——開発は開発屋さんに任せておいたのでは大変なことになるのであります。ブドウ屋さんが開発に対して文句をつけにやいかんのであります。

したがって、当初は、開発の工程会議を頻繁に開きます。そういうことが最初なんです。それと同時に、最初の間は、参加の枠をどうして募集していくかというようなことが最初の段階でございました。特に私がおります三良坂でも、そういうことが今問題です。しかし、一応軌道に乗りますと、やはりその経営のいき方、ブドウ組合としての経営のいき方を一体どうしたらいいのか。そう

いった視点に立って、特に資金対応、それから流通の対応、そういったようなことを、要するに技術を中心として——栽培技術、生産技術といったものを中心として、要するに連携をして、先ほど言いましたように戦術会議を開くところであります。そういったところでございます。

第3点の、出資が多いがどうかということですが、これは、本当にやる意思を示すのは、口先だけではなかなかできないことでございます。ただ、出資が多いというのは、先ほどちょっと触れましたが、まったくの新しい入植者ではないのであって、地元開拓なんですから、若干の経営の弾力的なものがあるわけですね。これが新規開拓だったらなかなかできませんよ、どうして飯を食うていくかということが先になりますんでね。それで、一口が1,000円です。一口が1,000円で、これは三次の場合でも三良坂の場合でも同じで、次第次第に出資をしていきます。労働を換算して、出資に労賃をもらって、それを出資にするというのもあります。

そういう積み重ねが今日に至っておるので、もちろん一遍にしたわけじゃございません。ただ、そのバックにはそういうものがあるよということは、非常に強みではないか。地元開拓としての強みではないかと思っております。

法人の形態は、農事組合法人でございます。当初から全部、農事組合法人でやります。